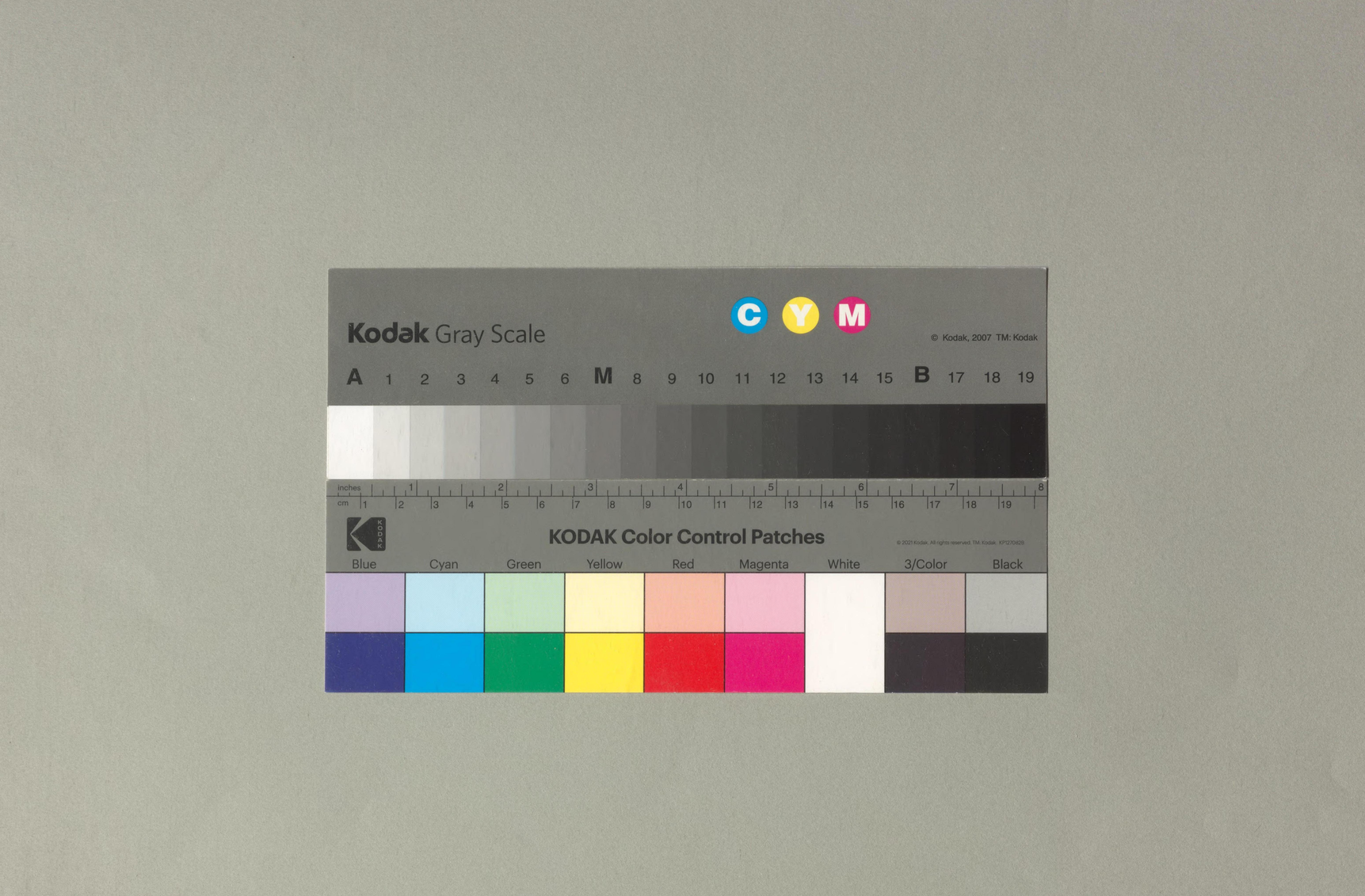
Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
KODAK Color Control Patches
© 2021 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. KPG270628
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black


川崎正敬著
紀上小古師畫集
水户達摩堂藏版

第十九圖

(一)(二)(三)(四)(五)　金澤の八幡起上り（張子製）　何時の頃かは詳からねど、往昔加賀にも一國一社の八幡宮鎭座ましくける折、宮の前に住める一人の翁、常に大神の偉德を慕ひ、蜀紅錦の胞衣にて胎中天皇の御幼体を裹み奉れる形に擬らへて、八幡起上りを製り、望みの人に與へて幸を受けしめたるが其靈驗なりと傳へらる。松竹梅の模樣美しく彩れるもの多きは蜀紅錦を寫せるなり。童顏自ら氣品あるも爾れなきにあらず。年の暮れより春にかけて多く賣買せらる。婚禮の簞笥に入れて引出物の一とし、或は年玉、旅行者への餞別、又は病氣見舞にも用ひらる。前田侯邸にては今も猶、宮家に御病人あらせらるゝ時、御見舞にこの起上りを献上せらるゝ由なり。

(六)　金澤の達磨（張子製）　男達磨にて近來の製作に係り、市中よりも在方に顧客多し。この男達磨の大形のもの、眼睛を點ぜざる儘北海道に輸出せらる。(一)は實物の五分の四、他は實物大なり。

第二十圖

(一)　山形の蠶神（張子製）　養蠶期に之れを神棚に祀り蠶の出來榮を祈る。

(二)(三)　二春の起姫（張子製）　福島飯坂にもあり。方言起きたり小法師と云ふ。詛りておきだら小法師と聞ゆ。毎年福島にては歲暮稻荷市に、飯坂にては舊十二月二十四日、三春にては舊二月十二日の市に養蠶の緣起物として買はる。蠶の起きのよき樣にとの迷信にもとづく。此外に蠶神と稱する張子人形此地方にあれど、起上小法師形をなさず。

(四)(五)(六)　會津若松の起姫（張子製）　普通には單に起上りと云ふ。(四)は三春の(二)に似寄れるが、襟元の著しくつまれるを異なりとす。今は餘り作らずなれり。(五)も少し。最普通に用ひらるゝは(六)にして、乘れ髪の短きを男、長きを女と呼ぶ。毎年舊一月十日の十日市にのみ賣出され、家内繁昌の爲め、家人の數より一つだけ多く買ひ神棚に祀る。俳諧宗匠雀庵長房が天保三年より文久三年迄に雜錄せる隨筆さへづり草五の巻に『こゝにみちくの會津にてはかの小法師めくものにはあらで、姫神の形に張りなし、年のはの睦月十日の市に鬻ぐ。こを家毎に人の有數ほど買ひ得て、祝の一くさとするも珍しき習はしなるべし。仍るゝを起す守りと初春に賣るや惠もあつきこの神　檗亭主人』とあれば、此風俗は文久三年以前に已に行はれ居りしこと明かなり。但し其頃は家内の人數だけ祀りしものを、何時の頃より一つだけ多く買ふ樣になりしものにや、詳ならず。此圖に示せるはいづれも實物大なり。

第二十一圖

(一)(二)　高松の達磨（張子製）　(一)は顔のこしらへ派手に、(二)は素朴にて愛すべし。

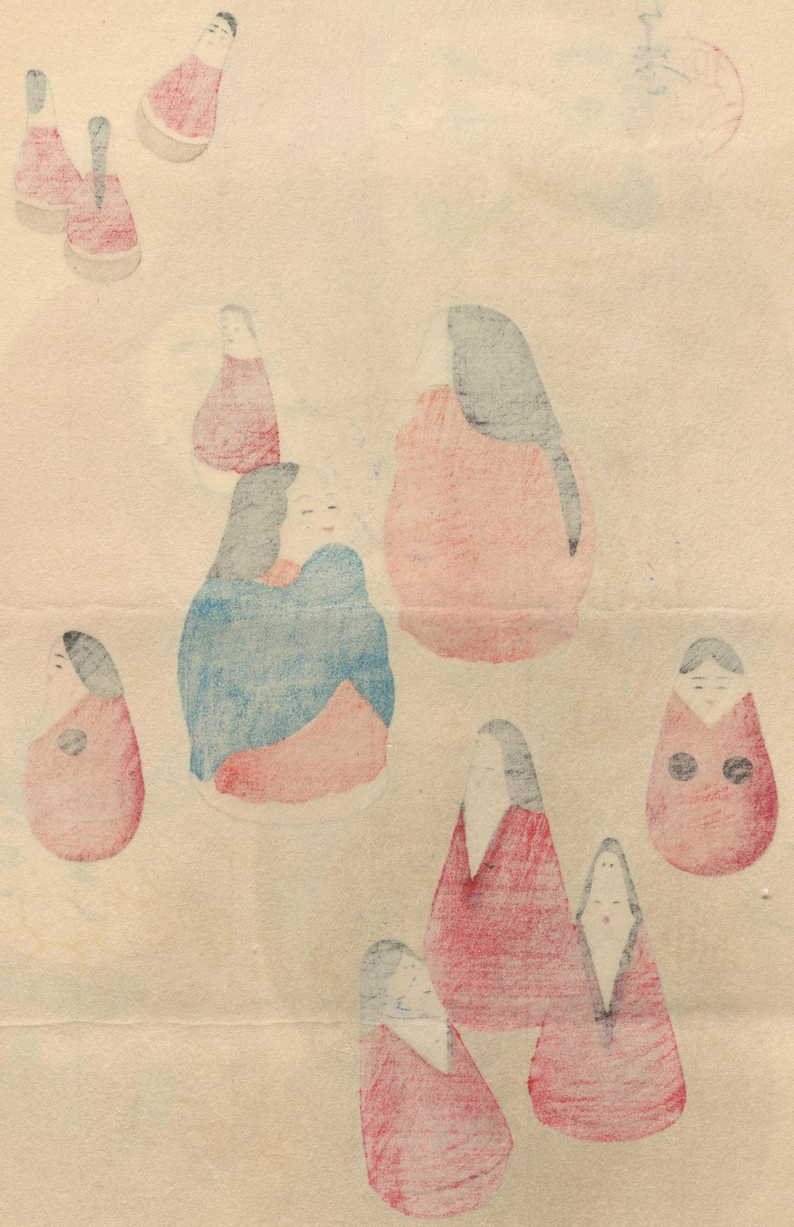
(三)(四)(五)　多度津の達磨（張子製）　(三)は筆太に銀色もて衣襞及び顔の周圍を彩れるが殊に目立つ。(五)の黒鉢卷したるは他に類なし。(一)(二)と共に第一集第三圖を參照するを要す。此圖に示せる(一)は實物の五分四、他は皆實物大なり。

大正十三年十一月

木戸忠太郎記

大正 14. 2. 2 内交

六
五



大正十三年十二月一日印刷
大正十三年十二月五日發行

畫者　川崎巨泉

京都市上京區土手町夷川上ル
末丸町二百八十四番地
編輯兼印刷發行者　木戸忠太郎

京都市上京區土手町夷川上ル
發行者　木戸忠太郎

電話上一一九九・振替口座穴阪六八五九九